

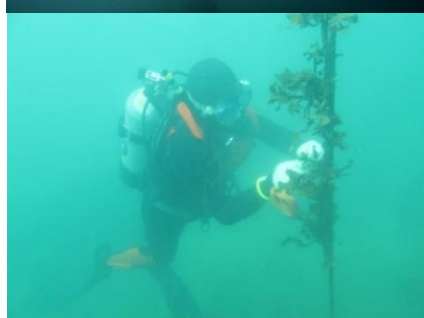
題 相模湾試験場カジメ増殖大作戦

船長 西村竜雄
水産職 春山出穂

海藻類がなくなってしまう磯焼け現象をご存知ですか？残念ながら神奈川県沿岸の磯根に生息していたカジメ類は壊滅的な状態で、これをエサとしていたアワビの漁獲量の激減など沿岸漁業に深刻な影響が見られています。そこで、当時はカジメ増殖大作戦に取り組んでいます。少ない人数で県西地区のカジメを復活させるのは、とても大変なことだと誰もが認識しています。船員だからやらない。担当が違うからやらない。そんなことを言う人は誰もいません。居所一体となってカジメの森復活を目指しています。もちろんカジメの森復活は地先の漁業者とともに取り組んでいくこととなりますが、広域に展開する前段階として次の作戦を成功させなければなりません。その作戦とは、①試験場の実験室で早熟カジメの赤ちゃんを作る、②江之浦沖で大人に育てる、③小田原漁港内(蓄養水面)で成熟させて胞子を放出させる、の三段階で構成されており、今回のコラムでは③の蓄養水面内での増殖作戦状況をご紹介します。



カジメが食べられないように、ネットで保護したカジメ増殖施設を複数海中に設置しています（許可済）



海底固定型、ウニカゴ型、垂下型など色々な方法を試みました

一体なぜカジメなどの海藻がなくなるのか！それを解明するために、海中にカメラを設置して現在分析中です。膨大な量の画像解析が必要となるため、かなり大変な作業ですが、カジメを食べる魚が沢山いることがわかってきました。以下カジメが食べられた衝撃的な現行犯映像です。



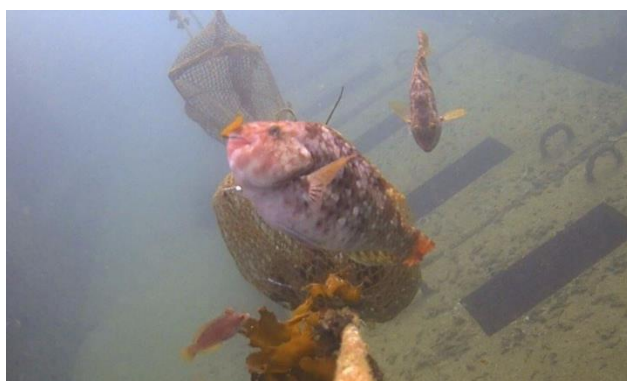
アイゴ



タカノハダイ



ニザダイ



ブダイ



クロダイ



まさかのアオウミガメ・・・

漁港内でも沢山の魚が確認され、神奈川県に豊かな水産資源があることが確認されています。なお、小田原漁港西側（蓄養水面）は関係者以外立入禁止となっていますのでご注意ください。

このカジメは城ヶ島の水産技術センターから調査船「ほうじょう」を使って搬送したものもあります。今後も船舶や装備資機材を有効活用し、相模湾試験場一丸となってカジメの森再生に取り組んでいく所存です。